

**CIGS エネルギー環境セミナー
「COP21 とパリ協定の意義及び今後の課題」**

日 時	7月25日(月) 18:00-19:30
会 場	キャノングローバル戦略研究所 大会議室 (東京都千代田区丸の内 1-5-1 新丸ビル 11階)
言 語	日本語

開催趣旨

昨年末に開催された COP21 とそこで採択されたパリ協定は、地球温暖化抑制に関する国際的枠組形成にとって、大きなマイルストーンである。それにより、世界各国の環境政策とエネルギー政策が大きく変わろうとしている。この情勢を踏まえて、世界のエネルギー需給見通しの視点から、COP21 とパリ協定を評価し、今後の課題を展望する。

プログラム

18:00-18:05	趣旨説明 芳川 恒志 (キャノングローバル戦略研究所 研究主幹)
18:05-18:45	講 演 「COP21 とパリ協定の意義及び今後の課題」 服部 崇 (経済産業省 通商政策局 経済連携交渉官 前 IEA 環境・気候変動ユニット長)
18:45-19:30	質疑応答と討論 モデレーター：芳川 恒志

講師紹介

2013年3月から2016年6月まで IEA 環境・気候変動ユニット長として IEA のエネルギーと気候変動に関する政策分析を統括。『エネルギー・気候変動・環境』(2014)を発行。『世界エネルギー展望：エネルギーと気候変動に関する特別報告書』(2015)などに参画。東京大学教養学部卒。ハーバード大学ケネディスクール修士。東京工業大学博士(学術)。1991年、経済産業省(当時：通商産業省)入省。現在は、経済産業省の経済連携交渉官として東アジア地域包括的経済連携や日中韓自由貿易協定などを担当している。